

用語の解説

冊子中、※を付した用語のほか、参考となる用語の解説をしています。

行	用語	説明
あ	医療ソーシャルワーカー (MSW)	保健医療分野におけるソーシャルワーカーであり、主に病院において『疾病を有する患者等が、地域や家庭において自立した生活を送ることができるよう、社会福祉の立場から、患者や家族の抱える心理的・社会的な問題の解決・調整を援助し、社会復帰の促進を図る』専門職を指す。略称: MSW (Medical Social Worker)
	院内がん登録	医療施設における診療支援とがん診療の機能評価を第1の目的として実施する、その施設におけるすべてのがん患者さんを対象とするがん登録のこと。各医療施設での登録の精度の高さは地域でまとめる情報の精度を左右することから、院内がん登録の整備は、地域がん登録にとって必要不可欠。
	インフォームド・コンセント	患者が医師から病状、診療方針などの説明を十分に受け、同意した上で診療を受けること。
	ABC検診	ヘリコバクター・ピロリ感染の有無を調べる検査(血液中のピロリ抗体を測定)と萎縮性胃炎の有無を調べる検査(血液中のペプシノゲンを測定)を組み合わせる検査(胃がんになりやすいか否かのリスク(危険度)分類をする検診)。
	エビデンス	医学および保健医療の分野では、ある治療法がある病気・怪我・症状に対して、効果があることを示す証拠や検証結果・臨床結果を指す。エビデンスは、医療行為において治療法を選択する際「確率的な情報」として、少しでも多くの患者にとって安全で効果のある治療方法を選ぶ際に指針として利用される。
か	介護サービス	介護保険における要介護認定を受けた要支援、要介護者に提供される介護のサービスのこと。介護給付と予防給付があり、介護給付は要介護の認定を受けた場合、予防給付は、要支援の認定を受けた場合に利用できる。 居宅サービスには、訪問介護、訪問入浴介護、通所介護、訪問看護、福祉用具貸与等がある。 施設サービスでは、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設がある。 このほか、小規模多機能型居宅介護や認知症対応型共同生活介護などの地域密着型サービスがある。
	化学療法	化学物質(抗がん剤)を用いて、がん細胞を破壊する治療法。1種類で使われることもあるが、病状に合わせていくつかの種類の薬を組み合わせることも多い。
	肝炎ウイルス	主な肝炎ウイルスはA型、B型、C型、D型、E型の5種類。詳しい症状とそれを起こしやすい肝炎ウイルスの型は以下のとおり。 1. 慢性肝炎: B型、C型肝炎ウイルスによるものが多い。長期間にわたり軽度の肝障害が続く。徐々に肝臓が繊維化し、肝硬変や肝がんに至ることがある。 2. 急性肝炎: A型、B型、E型肝炎ウイルスによるものが多い。急速に肝細胞が破壊されるために、発熱、全身倦怠感、黄疸などの症状があるが、自然経過で治癒することが多い。 3. 劇症肝炎: 急性肝炎のうち、発症から8週間以内に高度の肝機能障害を起こし、脳症などを来すもの。集中的な医学管理を要する。生存率は30%ほど。 なかでもB型及びC型肝炎ウイルスの患者・感染者は合わせて300万人を超えており、国内最大の感染症。
	がん検診県民サポーター	埼玉県では、自ら積極的にがん検診を受診するとともに、家庭や地域など身近な方に対して、草の根レベルでがん検診の受診勧奨を行う方をがん検診県民サポーターとして養成。
	がん検診受診推進サポーター	埼玉県と包括協定締結企業等が連携・協力してがん検診の普及啓発を進め、がんの早期発見・早期治療を図るため、協定企業の社員等をがん検診受診推進サポーターとして養成し、県民に直接・個別にがん検診の啓発活動や受診勧奨を行う。
	肝疾患診療連携拠点病院	肝疾患に関する専門医療機関の条件を満たし、かつ肝がんに対する集学的治療を行うことのできる医療機関のうち、都道府県の中で肝疾患の診療ネットワークの中心的な役割を現在果たしている、または将来果たすことが期待される医療機関を、各都道府県知事が指定。
	患者会	同じ病気や障害、症状などの共通する体験を持つ患者さんなどが集まり、情報交換や交流する会のこと。活動の内容は、それぞれの会によってさまざまで、特定のがんに限定している会もあれば、さまざまな種類のがんを対象に活動しているところもある。
	患者サロン	患者さんやその家族など、同じ立場の人が、がんのことを含めて気軽に語り合う交流の場のこと。最近、がん診療連携拠点病院など医療機関の中や公民館などに患者サロンを設置する病院や自治体もふえている。そのため、運営の仕組みはさまざまで、患者会や患者さんと家族が主体であるものや、病院が開設しているもの、また両者が協力しながら運営しているところもある。
	がん診療指定病院	がん診療連携病院と連携して地域において高度ながん診療を提供する医療機関として知事が指定。
	がん診療連携拠点病院	地域の医療機関との連携を図りつつ、質の高いがん医療の提供機能を有する病院。集学的治療(手術・抗がん剤・放射線治療の組み合わせ、緩和治療)、セカンドオピニオンの提示、地域の医療機関の支援、研修及び情報提供機能を有している。
肝臓病相談センター	肝疾患の患者、無症候性キャリア及び家族等の不安軽減と患者自身による最適な肝炎診療の選択、感染予防の推進、肝炎診療従事者への相談等に対応することにより、診療支援及び診療連携体制を確保することが目的。	

行	用語	説明
か	がん発見率	がん発見率(%)=(発見がん数÷受診者数)×100
	がん文庫	患者図書室として、病院らしくないつろいだ雰囲気があり、医学専門書、病気や治療についての一般向けの本などの「情報本」や闘病記、医学・医療関係の良書などの蔵書がある。千葉県立がんセンターの「ことな文庫」などの設置例。
	緩和ケア	がんに伴う体や心の問題を、単に病気に対する医療としてだけではなく、社会生活などまで含めて全体的に個々の患者を支えるという医療のあり方。がんが進行した時期だけではなく、がんの診断や治療と並行して行われるべきと考えられている。
	緩和ケア外来	通院中の患者さんに対して、院内の緩和ケアチームが行う外来。入院中に緩和ケアチームの診療を受けていた患者さんも、退院後引き続き緩和ケア外来で診療を行う。
	緩和ケアチーム	がん患者の多様な苦痛症状への対処のために、医師や看護師を含めた様々な職種の医療スタッフが集まり、協力しながら適切な緩和ケアを提供すること。メンバーは、痛みや嘔気・嘔吐、倦怠感や呼吸困難といった身体症状をコントロールする医師や、不安や抑うつ、せん妄など精神症状をコントロールする医師、がん看護に習熟した看護師などが中心。その他に病院によっては、がん治療に習熟した医師(内科、外科、放射線科)や、御家族に看護情報を提供する各病棟の看護師(リンクナース)や、薬剤師、理学療法士、栄養士などが参加していることもある。
	緩和ケア病棟	がんをはじめとする患者さんとその家族が、治療が困難であっても限られた時間を自分らしく過ごせるよう、医療面、生活面、精神面などから包括的に支援する医療やケア、あるいはそのような医療やケアを行う施設のことで。がんによる痛みや苦痛の緩和、精神的ケア、家族へのケアなどが行われる。
	がんサージカルボード	手術療法、放射線療法及び化学療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師その他の専門を異にする医師等によるがん患者の症状、状態及び治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンスをいう。
	均てん化	がん医療においては、全国どこでもがんの標準的な専門医療を受けられるよう、医療技術などの格差の是正を図ることを指す。地域における医療機関の役割分担の見直し、がん医療専門の医療関連職種の育成、医療機関の連携などを図り、患者さんが望む時期に適切な医療を受けられるような環境整備が必要とされている。
	ケアマネージャー	介護サービス計画(ケアプラン)を立てるほか、本人及び家族とともに、介護サービス提供者や保健・医療のサービス提供者などとの連絡調整を行う専門職である。介護支援専門員ともいう。なお、介護サービス計画(ケアプラン)は、介護サービスを適切に利用できるように、本人や家族の心身の状況や生活の環境などに配慮し、利用する介護サービスの種類や内容を定めた「介護サービスの利用計画」のことである。
	口腔ケア	口腔ケアの定義は、狭義には、口腔衛生の改善のためのケア(口腔清掃)を指すが、最近では、広義として摂食・咀嚼・嚥下訓練まで含まれている。現在多くが使用している定義では、「口腔清掃、歯石の除去、義歯の調整・修理・手入れ、簡単な治療などにより口腔の疾病予防・機能回復、健康の保持増進、さらにQOL(生活の質)の向上を目指した技術」をいう。
	5年相対生存率	予後の指標で、ある集団のある疾患に関して算出した5年生存率(実測生存率)を、その集団と同じ性・年齢・出生年分布をもつ日本人の期待生存率で割ったもの。対象疾患以外の死亡の影響を調整した5年生存率であり、異なる集団間の生存率の比較に用いられる。
さ	在宅医療	病院ではなく、住み慣れた自宅などで病気の療養をすること。外来診察に通いながら治療を続けている場合も含む。在宅医療は、患者さんやその家族による医療(セルフケア)と、地域の医師、がんの治療や緩和ケアを専門とする医師、看護師、作業療法士、理学療法士らが訪問して行う訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーションなどからなる。
	在宅患者訪問薬剤管理指導届出	在宅患者訪問薬剤管理指導料を算定する場合、あらかじめ在宅患者訪問薬剤管理指導を行う旨を、地方厚生(支)局長に届出している。在宅患者訪問薬剤管理指導料は、在宅での療養を行っている患者であって通院が困難なものに対して、届出をした保険薬局の薬剤師が、医師の指示に基づき、薬学的管理指導計画を策定し、患者を訪問して、薬歴管理、服薬指導、服薬支援、薬剤服用状況及び薬剤保管状況の確認等の薬学的管理指導を行い、当該指示を行った医師に対して訪問結果について必要な情報提供を文書で行った場合に算定する。
	在宅緩和ケア	在宅で療養している患者さんに対する緩和ケアのこと。がんに伴うさまざまな問題(痛み、不快な症状、家族との関係、精神的不安、経済的不安など)に対して、在宅でも患者さんが療養しやすい環境を整えるという観点で、医療的な面だけではなくさまざまな視野から総合的に支えていくこと。
	在宅サービス	介護が必要な高齢者が在宅で介護を受ける場合に提供されるサービスのこと。家庭を訪問したヘルパーが身体介護や生活援助を行う訪問介護、老人デイサービスセンター等に通って入浴や食事の介護、健康チェックなどを受ける通所介護、介護者が病気などで一時的に介護できないときに利用する短期入所生活介護などが代表例。

行	用語	説明
な	在宅療養支援診療所	地域における患者の在宅療養の提供に主たる責任を有し、厚生労働大臣が定める施設基準に適合するものとして地方厚生(支)局に届け出ている診療所。主な施設要件は次のとおり。 ①在宅療養を担当する常勤の医師が3名以上配置されていること。 ②当該診療所において24時間連絡を受ける医師又は看護職員を配置していること。 ③当該診療所を中心として、他の医療機関、訪問看護ステーションとの連携により24時間往診や訪問看護の提供が可能な体制を確保していること。 ④緊急入院の受け入れ体制を確保していること。 ⑤他の保健医療サービス及び福祉サービスとの連携調整を担当する者と連携していること など。
	社会福祉士	社会福祉士は社会福祉士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者との連絡及び調整その他の援助を行うことを業とする者をいう(社会福祉士及び介護福祉士法第二条第一項)。
	集学的治療	がんの治療法としては、主に、手術療法、放射線療法、薬物療法などがある。これらを単独で行うのではなく、がんの種類や進行度に応じて、さまざまな治療法を組み合わせた治療を行う場合があり、これを集学的治療という。
	周術期	入院、麻酔、手術、回復といった、患者の術中だけでなく前後の期間を含めた一連の期間のこと。「周手術期」ともいう。「周術」には一般に手術に必要な3つの段階、術前、術中、術後が含まれる。周術期管理は外科医、麻酔科医、歯科医などにより協同して行われ、それに対応する看護を周術期看護という。
	術中迅速病理診断	手術の最中に一部の組織を採取し、病理医(人体から採取した組織を顕微鏡で調べて、どのような病気か、どの程度病気が進行しているかなどを診断する医師)が短時間で、腫瘍が良性か悪性か、リンパ節に転移していないか、などについて診断すること。
	受動喫煙	喫煙者が自分の意思でたばこを吸うこと(能動喫煙)に対し、喫煙者の周囲にいる非喫煙者が、自分の意思とは無関係にたばこの煙を吸うこと。
	小児がん拠点病院	地域における小児がん医療及び支援を提供する中心施設として、地域全体の小児がん医療及び支援の質の向上を図るため、平成25年2月に全国で15か所の小児がん拠点病院が指定された。
	小児慢性特定疾患	児童福祉法第21条の5に基づき、子どもの慢性疾患のうち、国が指定した疾患
	診療ガイドライン	診療ガイドラインは、系統的に収集して整理した診療に関する情報や検討結果を、参照しやすい形にまとめたもの。ある状態の一般的な患者さんを想定して、適切に診療上の意志決定を行えるように支援することを目的。
	生活習慣病	生活習慣が発症原因に深く関与していると考えられている疾患の総称。「食習慣・運動習慣・休養・喫煙・飲酒等の生活習慣が、その発生・進行に関与する疾患群」と定義されている。食生活を始めとする個々人の生活様式の中にそのリスクファクター(危険因子)が潜んでいるものであり、正しい生活習慣を身につけることが健康の増進や病気の予防につながることとなる。なお、生活習慣病の例として、がん、糖尿病、脂質異常症、高血圧症などが挙げられる。
	生活習慣病検診管理指導協議会	都道府県は、がん、心臓病等の生活習慣病の動向を把握し、市町村、医療保険者及び検診機関に対し、検診の実施方法や精度管理の在り方等について専門的な見地から適切な指導を行うために設営・運営。
	精検受診率	精検受診率(%)=(精検受診者数÷要精検者数)×100
	生存率	ある一定の期間経過した集団について、その時点で生存している患者さんの割合のことで、通常は百分比(%)で示される。生存率は、治療の効果を判定する最も重要かつ客観的な指標。診断からの期間によって、生存率は異なってくる。部位別生存率を比較する場合やがんの治療成績を表す指標として、5年生存率がよく用いられる。がんの種類や比較などの目的に応じて、1年、2年、3年、5年、10年生存率が用いられる。生存率は、計算する対象の特性(性別や年齢)、進行度(早期のがんか進行したがんか)や、計算する対象の選び方(外来患者さんを含めるか、入院患者さんだけか、来院した患者さんをすべて含んでいるか、など)に大きく影響を受ける。そのため、複数の施設(病院)を比較したり、いくつかの部位を比較する場合は、どのような対象について生存率を計算しているか注意する必要がある。
	セカンドオピニオン	患者が主治医の診断、治療法などについて別の医師の意見を聞いた上で納得のいく診療を受けること。
	全面禁煙・空間分煙実施施設認証制度	全面禁煙又は空間分煙を実施している施設を、管理者からの申請により、県が「全面禁煙(空間分煙)実施施設」として認証する制度。認証された施設には、認証書及びステッカーを交付している。
	臓器別がん登録	大学と主要な医療施設が参加し、学会・研究会が中心となって、臓器別に全国規模で実施されているがん登録のこと。がんの臨床病理学的特徴と進行度の正確な把握に基づき適切な治療指針の確立、進行度分類のあり方などを検討することを目的。

行	用語	説明
	相談支援センター	全国のがん診療連携拠点病院に設置されている「がんの相談窓口」。患者さんや家族あるいは地域の方々に、がんに関する情報を提供したり、がん専門相談員としての研修を受けたスタッフが、信頼できる情報に基づいて、がんの治療や療養生活全般の質問や相談に対応。
た	地域がん登録	県内におけるがん医療水準の向上を図るため、県内におけるがん患者の罹患(りかん)から治癒(ちゆ)若しくは死亡に至る全経過の情報を登録し、がんの罹患率や生存率の計測を行うこと。がんの実態を把握し整理し、解析することで、がん予防、がん診療レベルの向上を図ることができる。
	地域包括支援センター	市町村が設置する地域の保健・医療・福祉の中核的機関。高齢者福祉の総合相談、介護予防ケアマネジメントや地域ケアの推進を担う。市町村又は市町村から委託された法人が設置・運営している。
	地域連携クリティカルパス	急性期の医療機関から回復期の医療機関を経て自宅に戻るまでの治療経過に従って、各機関ごとの診療内容や達成目標等を明示した診療計画表(クリティカルパス)のこと。患者や関係する医療機関で共有することにより、質が高く効率的な医療の提供と患者の医療に対する安心の確保が見込まれる。
	特定健康診査・特定保健指導	平成20年度から医療保険者に義務付けられた40歳以上74歳以下の被保険者・被扶養者に対して行う生活習慣病に着目した健康診査・保健指導のこと。腹囲や血糖値、中性脂肪値などの特定項目での健診、結果の提供、生活習慣の改善に関する基本的な情報の提供を行う。さらに、特定保健指導対象者を選別し、対象者が自らの健康状態を自覚し、生活習慣の改善に係る自主的な取組の実施に向けた「動機付け支援」又は「積極的支援」を行う。 特定保健指導の対象者は、特定健康診査の結果、腹囲が85cm以上(男性)、90cm以上(女性)の者又は腹囲が85cm未満(男性)、90cm未満(女性)の者でBMIが25以上の者のうち、①血糖(空腹時血糖が100mg/dl以上又はHbA1cが5.2%以上)、②脂質(中性脂肪150mg/dl以上又はHDLコレステロール40mg/dl未満)、③血圧(収縮期130mmHg以上又は拡張期85mmHg以上)のいずれかに該当する者(糖尿病、高血圧症、脂質異常症の治療に係る薬剤を服用している者を除く)をいう。
な	乳がん検診マンモグラフィ読影認定医師	乳がんの早期発見のために人の乳房をX線撮影する手法では、独特の微妙な画像の読影技術を要求されるため、特に訓練を受けた医師でなければ正しく診断することは難しい。日本ではNPO法人マンモグラフィ検診精度管理中央委員会(通称「精中委」)が一元的にこうした教育・資格認定・基準策定などを行っている。
	年齢調整階級別罹患率	年齢階級別に算出した罹患率。通例、5歳階級ごとに(85歳以上はまとめる)算出され、例えば「40～44歳人口10万人のうち何人罹患したか」で表現される。がんは年齢層によって罹患率が大きく異なり、多くの部位のがんは高齢ほど罹患率が高くなるが、部位によっては若年層で罹患率が高くなるがんもある。このため、年齢層ごとの罹患率を見るために年齢階級別罹患率が用いられる。
	年齢調整死亡率	死亡数を人口で除した通常の死亡率(粗死亡率)と違い、年齢構成の異なる地域間で死亡状況の比較ができるようにするための死亡率をいう。この死亡率を用いることによって、年齢構成の相違を気にすることなく、より正確な地域比較や年次比較をすることができる。 年齢調整死亡率 = [(基準人口(昭和60年モデル人口) 観察集団の各年齢(年齢階級)の死亡率 × 基準人口集団のその年齢(年齢階級)の人口)の各年齢(年齢階級)の総和 / 基準人口集団の総人口(通例人口10万人当たりで表示)]
は	晩期合併症(晩期障害)	小児がんでは、病気そのものが治癒したと見られる場合でも、がんそのものからの影響や薬物療法、放射線療法などの治療の影響によって生じる合併症が見られる。
	ピアサポート	ピア(Peer)とは「仲間」という意味で、同じような悩みあるいは経験を持つグループの中で、同じ仲間として対等な立場で行われる支援のこと。
	BMI	国際的な研究では、BMI(Body Mass Index: 肥満指数)が25以上を過体重、30以上を肥満。BMIは、体重(kg)を身長(m)で2回割り算した値(体重60kg、身長160cmなら、60÷1.6÷1.6で求められます)で示される。
	ヒトT細胞白血病ウイルス1型	略称:HLTV-1(Human T-cell Leukemia Virus Type 1) 主に血液細胞(Tリンパ球)に感染するウイルスで、一度感染するとウイルスを持ち続けることになるが、感染しても発病する人はごく一部で、しかも発病までには長い潜伏期がある。
	ヒトパピローマウイルス	子宮頸がんの発生には、その多くにヒトパピローマウイルス(Human Papillomavirus: HPV)の感染が、関連しているとされている。HPVには、100種類以上のタイプがあり、このうち15種類が子宮頸がんの原因となるハイリスクタイプに分類。
	分子標的療法	がん細胞で傷ついた遺伝子からつくられる、がん細胞の増殖する異常な性質の原因となっているタンパク質を攻撃する物質や抗体を、体の外から薬(分子標的薬)として投与することによってがんを治療する方法。
	ヘリコバクター・ピロリ	胃粘膜に感染して胃や小腸に炎症および潰瘍を起こす細菌。また、胃がんやリンパ腫の発生に強く関連していると考えられている。
	包括協定	正式名称は、「埼玉県におけるがん啓発・がん検診の受診率向上に向けた包括的連携に関する協定」。締結企業・団体では、啓発セミナーの開催、窓口や顧客への普及啓発、従業員・職員へのがん検診受診勧奨などの活動を行う。
	放射線療法	病変(がん)に治療用の放射線を当てて、がん細胞を死滅させる治療。

行	用語	説明
は	訪問介護	在宅で、ホームヘルパーなどから受ける食事、入浴などの身体介護や掃除、買い物などの生活支援。
	訪問看護	在宅で、看護師などから受ける床ずれの処置などの療養の世話。
ま	麻薬小売業者間譲渡許可制度	麻薬の在庫不足のため麻薬処方せんにより調剤することができない場合に限り、当該不足分を近隣の麻薬小売業者間で譲渡・譲受することを可能とする許可制度
	麻薬小売業者免許	麻薬施用者が交付した麻薬を記載した処方せんに基づき、麻薬を調剤し、患者に交付するために必要な免許、薬局を開設していることが前提要件。
	メタボリックシンドローム	内臓脂肪による肥満の人が、糖尿病、高血圧症、脂質異常症などの生活習慣病になる危険因子を複数併せ持っている状態。これらの危険因子が重なることにより、心疾患や脳血管疾患を発症する危険が増大するとされている。
や	薬物療法	がん細胞の増殖を防いだり、がん細胞そのものを破壊する作用をもった抗がん剤を用いた治療法。がんがふえるのを抑えたり、成長を遅らせたり、転移や再発を防いだり、小さながんで転移しているかもしれないところを治療するためなどに用いられる。「化学療法」「分子標的治療」「ホルモン療法(内分泌療法)」が含まれる。
	要精検率	要精検率(%)=(要精検者数÷受診者数)×100
	陽性反応適中度	陽性反応適中度(%) 対精検受診者数=(発見がん数÷精検受診者数)×100 陽性反応適中度(%) 対要精検者数=(発見がん数÷要精検者数)×100
ら	罹患率	ある集団で新たに診断されたがんの数を、その集団のその期間の人口で割った値。通常1年単位で算出され、「人口10万人のうち何例罹患したか」で表現される。200X年の罹患率(粗罹患率)=200X年に新たに診断されたがんの数÷200X年の人口×100000。
	リニアック	LINAC(リニアック・ライナック)とは直線加速器のことで、放射線治療用のX線や電子線を発生させる最も一般的な装置。
	リハビリテーション	理学療法士・作業療法士などから受ける心身の機能の維持回復を図り、日常生活の自立を助けるための理学療法・作業療法など。
	臨床進行度	地域がん登録で用いられる、がんと診断された時点における病巣の広がりを表す分類。以下の3つに分類することが多い。 限局(がんが原発臓器に限局しているもの) 領域(原発臓器の所属リンパ節または隣接する臓器に直接浸潤しているが、遠隔転移がないもの) 遠隔(遠隔臓器、遠隔リンパ節などに転移・浸潤があるもの)